

メタ言語としてのISO17100：翻訳プロセスの詳細化

大西菜奈美 山田優
関西大学

1 はじめに

翻訳とは、原文テキスト以外のさまざまな情報を参照しながら翻訳操作にかかわる意思決定をするプロセスである。原文に内包される (intrinsic) 情報だけでなく、用語集スタイルガイド、また翻訳の目的のように原文テキストの外にある (extrinsic) 情報も重要になる。

産業翻訳においては、このような情報を誰が、どの段階で、どのように扱うのかという手続きが重要になるため、ISO17100[1]では、この手続きを翻訳プロセスとして規定している。実際の翻訳現場では、プロジェクトマネージャーが深く関与し、翻訳の発注者であるクライアントとの交渉、目的を含む仕様書の決定、翻訳者、チェッカーなどのワークフロー管理の業務を行う。

しかしその業務で扱う情報の中身については、ISO17100 の記載以上の粒度を超えると、担当者の経験や直感で判断されることがしばしばある。そのため詳細が、あまりよくわかっていない。具体例を見ながら説明する。

下の引用は、ISO17100 の「4. 制作前のプロセス及び活動」工程の「4.2 引合い及び実行可能性」に関する記述である。

“The TSP shall analyze the client’s enquiry in order to identify the client’s specifications for the services and the TSP’s capability to meet them, determining whether all the necessary human, technical, and technological resources are available.” (p.7)

翻訳作業開始の前段階でクライアントの要件を把握し、”clients’ specifications (仕様)”を”identify (同定する)”と規定している。しかし、実際に、specifications (仕様) で網羅すべき情報は明確に記述されていないため、どの情報をどの粒度で収集し仕様書に含めるのかは不明である。(仕様書に関して言えば、サンプルという形で ISO 17100 の付録に提供されているが、あくまで一例に過ぎない。)

このような状況は、業務担当者に判断させる余地を与えてしまい、安定的に品質の高い翻訳を提供したい翻訳会社にとっても望ましくない。また、翻訳の目的やコンテキストなどの原文テキストの外にある (extrinsic) 情報の扱い、翻訳品質への影響の分析、翻訳品質評価の実施を考えても、より詳細な翻訳プロセスの記述は重要になる。

そこで、本稿では、ISO17100 をベースとした翻訳プロセスの記述を、ISO 17100 以外の資料と収集データを参照して詳細化する。具体的には、翻訳プロセスに関わる誰が何を行うのかを、翻訳プロセスの下位工程毎に実行される内容 (タスク) に分解し、その詳細内容を「属性」として記述・整理する。最終的には、翻訳プロセスを学ぶ者と学習者にとっての可学習性の向上、翻訳プロセスで扱う外的情報を考慮した翻訳品質評価標準の構築に应用することを目指す。本項は、そのための作業の詳細化方法の一部を説明する。

2 詳細化の方法

2.1 タスクの抽出

翻訳プロセスの詳細化にあたり、産業翻訳のプロセスを規定した国際標準規格の ISO17100 をベースに使用した。そのうち、プロジェクトのワークフローの記述がある 4~6 章を詳細化の対象とした。各章は、以下の翻訳プロセスの下位工程を説明し (4 章 Pre-production (制作前プロセス), 5 章 Production (制作プロセス), 6 章 Post-production (制作後プロセス)), その工程に含まれる活動内容を記している。例えば、4 章 Pre-production (制作前プロセス) には、4.2 節 Enquiry and feasibility (引合いと実施可能性), 4.5 節 Quotation (見積り) のように、その工程で行われる活動の記載がある。これらの項目は、ISO 17100 の節見出しと対応する。見出しの下には、その活動内容の説明が記載されている。具体的には、4.2 節の記述は前述した”The TSP shall analyze...”である。以上が ISO 17100 の構成の概要だ。

ISO 17100 の情報から、筆者らは、まず詳細化の対

象となる表現（「タスク」と呼ぶ）を抽出した。タスクとは、TSP（翻訳会社）が行う活動の最小単位である。TSPが「何をする」のかを、詳細化するのが本稿の目的であるので、このように考えた。実例で説明する。

上の英文の記述から、この手順に従って、TSPが「何をする」に対応する表現を含むタスクを抽出する。すると次の3つのタスクを抽出できる。① analyze the client's enquiry, ② identify the client's specifications (for the services), ③ (identify) TSP's capability. これらのタスクが詳細化の対象になる。

は詳細化されたタスク②と③が入る。尚、ここまでの作業は、ISO 17100 で提供されている情報のみで完結する。

しかし筆者らの目的は更なるタスクの詳細化であるので、表1で示すように、より深い階層に記述を拡張する。具体的にいうと、表1のレベル4までに分解したタスク（同定すべき）②specification（仕様書）と③TSP's capabilityの中身を、更に細かく分解する。

冒頭で問題提起したように、実務現場や教育現場では、②「翻訳の仕様書」という考え方が重要であるとは理解されているものの、その中身が分からない

ISO17100見出し		ISO17100見出しまたは ISO17100本文からの抜き出し		ISO17100/ISO11669本文、翻訳会社データ参考文献からの抜き出し			参照資料
Level 1(下位工程)	Level 2(タスク)	Level 3	Level 4	Level 5	Level 6	Level 7	
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the client's specifications	source language content information	source characteristics	source language	ISO11669
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the client's specifications	source language content information	source characteristics	audience	ISO11669
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the client's specifications	source language content information	source characteristics	purpose	ISO11669
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the client's specifications	クライアント情報	新規 or リピーター顧客	-	翻訳会社A
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the client's specifications	原文用途	社内確認用、印刷用、プレゼン	-	翻訳会社A
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the client's specifications	原文の対象読	-	-	翻訳会社A
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the TSP's capability	human resources	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the TSP's capability	technical resources	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.2 Enquiry and feasibility	analyze the client's enquiry	identify the TSP's capability	technological resources	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.3 Quotation	indicate price	-	-	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.3 Quotation	indicate delivery details	language pair(s)	-	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.3 Quotation	indicate delivery details	delivery date	-	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.3 Quotation	indicate delivery details	format	-	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.3 Quotation	indicate delivery details	medium	-	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.3 Quotation	submit a quotation	-	-	-	-	ISO17100
4. Pre-production processes and activities	4.4 Client-TSP agreement
4. Pre-production processes and activities	4.5 Handling of project-related client information
4. Pre-production processes and activities	4.6 Project preparation
5. Production Process	5.2 Translation service project management
5. Production Process	5.3 Translation process	5.3.1 Translation
...

表1：タスク詳細化の例

2.2 タスクの詳細化

さて、原文の英文を見ながら、上で抽出した3つのタスクの関係に目を向けると、①は、②と③に分割できる（上位の階層にある）と考えられる。なぜなら①顧客要求を分析すること（analyze the client's enquiry）は、「in order to identify ② the client's specifications and ③TSP's capability（②と③を同定するため）とあるように、②と③を目的としたタスクだからである。つまり、①顧客要求の分析をするというタスクは、②顧客仕様書と③社内リソース情報を同定するタスクに分解されると理解できる。すなわち、タスク①は②と③に詳細化できる。

ここまでの手順の結果を、表1のレベル1～4に示す。レベル1は、下位工程の名前4. Pre-productionである。レベル2は節見出し4.2 Enquiry and feasibility, レベル3は抽出したタスク①, レベル4

いために、実際に仕様書を作ることができない、もしくは仕様書の作り方を教えることができないという問題が生じている。それゆえに、ISO17100に記載されている粒度以上のタスク詳細化が必要なのである。したがって、ISO 17100 以外の資料を参照し、更なる詳細化を行う。

2.2 詳細化のための参照資料と方法

更なるタスクの詳細化のために、ISO 17100 以外に参照した資料は次の3種類である。

- a. ISO11669
- b. 翻訳会社から入手した資料データ
- c. 翻訳プロジェクトマネジメントに関する書籍

a は ISO 17100 同様に翻訳プロジェクトを規定した国際規格 ISO11699 (Translation projects -- General

guidance) [2]である。翻訳プロジェクトのベストプラクティスのための標準仕様書と位置付けられている。ISO17100 の翻訳プロセスに対応しているため、タスク詳細化のための補完資料として最適である。

b は、筆者らが直接入手した資料データである。ISO17100 認証済みの大手翻訳会社 2 社に、インタビューを行い、翻訳業務の資料の提供を受けた。本研究のために、実際に翻訳案件を発注し、その後、合意の上で、作業に関するヒアリングを行ない、社内資料を可能な限り入手した。ISO 17100 の翻訳プロセスを現場で実践している会社の生データ・資料ということになる。

c は翻訳プロジェクトマネージメントを扱う書籍である。学術書から一般実用書までを含む。ただし、ISO17100 を想定して書かれていない書籍も含む。

これらの資料のうち、a と b は必須参照資料とした。特に a は、ISO 17100 の補完資料として、他よりも優先順位を高く設定した。c は、a と b に詳細化できる情報が見つからない場合にのみ参照した。

参照資料を使って詳細化する手順については、基本的には先述どおりに、各資料内のまとまった記述に対してタスクの抽出を行い、更なる詳細化の言葉を列挙した。それに先立ち、資料の内容を ISO 17100 の翻訳プロセスの下位工程に対応するように整理しておいた。

具体例で示す。表 1 の Level 6 の「identify the client's specifications 仕様書の同定」が、詳細化の対象タスクである。つまり「specification 仕様書」の中身を追加する必要がある。そこで a と b の資料からそれにあたるタスクを抽出して、すべてを述べ項目として列挙する (表 1 の Level 5~6)。表の最上段の、Level 5「source language content information」、Level 6「source characteristics」、Level 7「source language」は、「specification 仕様書」の詳細タスクの一例であり、参照資料 a の ISO 11669 から抽出した。上から 4 段目の Level 5「クライアント情報」Level 6「新規 or リピーター顧客」は参照資料 b の翻訳会社 A から抽出した。

2.4 タスクの整理

参照資料から列挙した項目については、後に重複する項目を同定し、完成表には最終的に 1 つの項目だけを残す。ISO11669 と重なる項目がある場合は、こちらの項目名を残す方針とする (最優先資料)。また、Level2 より下の階層については、タスク毎に階

層の深さが不揃いなので、最終的には、一定の基準にしたがって整える必要がある。今後の決定となる。

3. まとめと展望

以上、ISO 17100 の翻訳プロセスの詳細化の意義と方法の一部を報告した。翻訳プロセスで取り扱われる情報の範囲には、原文に内包される (intrinsic) ものだけでなく、原文テキストの外にある (extrinsic) ものもある。このことを強く認識し実践理論に取り入れた翻訳理論研究のドイツ機能主義の影響は、実務翻訳に多大な影響を与えただけでなく、近年では DQF や MQM[3]などの翻訳評価基準の策定にも貢献している。この流れは、引き続き翻訳・通訳の実務、教育、機械翻訳の開発 (例えば、マルチモーダル学習) を考える際にも重要となるだろう。このような観点からも、翻訳プロセスの詳細化の必要性を再確認できる。

謝辞

本研究の一部は、日本学術振興会科研費補助金基盤研究(S)「翻訳規範とコンピテンスの可操作化を通じた翻訳プロセス・モデルと統合環境の構築」(研究課題番号:19H05660)の支援を受けて行われた。

参考文献

1. International Standard Organization (ISO). (2015). ISO 17100:2015. Translation services – Requirements for translation services. First edition.
2. International Standard Organization (ISO). (2012). ISO 11669:2012. Translation projects – General guidance. First edition.
3. Burchardt, B. and A. Lommel (2014) QT-LaunchPad supplement 1: Practical guidelines for the Use of MQM in Scientific Research on Translation Quality. <http://www.qt21.eu/downloads/MQM-usage-guidelines.pdf>.

付録

タスク詳細化に使用した参考にした文献 (c)

ISO, 翻訳会社からのデータ以外で, 翻訳会社の実データの補完として参照した文献を示す.

- ・ Dunne, K & Dunne, E. (Eds). (2011). Translation and localization project management, ATA Scholarly Monograph Series XVI.
- ・ Russi, D & Schneider, R. (2016). A Guide to Translation Project Management, The COMET Program.
- ・ Mitchell-Schuitevoerder, R. (2020). A Project-Based Approach to Translation Technology, London: Routledge.